



# 詩人・大岡信さん死去

## 86歳 本紙で「折々のうた」



本紙の詩歌コラム「折々のうた」で知られ、文学をはじめ音楽、演劇、美術な

ど多彩な分野で評論活動を行った詩人で、文化勲章受章者の大岡信（おおおか・まこと）さんが5日午前10時27分、誤嚥性肺炎のため静岡県三島市の病院で死去した。86歳だった。家族で密葬をし、後日お別れの会を開く予定。喪主は妻で劇

作家の深瀬サキ（本名・大岡かね子）さん。▼30面11生の躍動うたうとして現在の静岡県三島市に生まれ、旧制沼津中在学中から詩を書き始めた。東大文学科在学中の51年、日野啓三らと同人誌「現代

文学」を創刊。53年、読売新聞社に入社し、54年に谷川俊太郎さんや茨木のり子らの詩誌「権」に加わった。55年に「現代詩試論」を刊行し、批評家として頭角を現す一方、56年の第1詩集「記憶と現在」でみずみずしい作風が注目された。63年に退社後、本格的な創作活動に取り組んだ。主な詩集に「水府 みえないまち」「草府にて」「春 少女に」（79年無限賞）、「故郷の水へのメッセージ」（89年現代詩花椿賞）、「地上楽園の午後」（93年詩歌文

学館賞）など。古今東西の文学・芸術の知識に裏打ちされ、豊かな叙情をたたえた作品群は戦後詩史の中で重要な地位を占める。評論活動では伝統的な詩歌の世界に目を向けた。主な評論集に「紀貫之」（72年読売文学賞）、「うたげと孤心」「詩人・菅原道真」（90年芸術選奨文部大臣賞）など。和歌や俳句から歌謡や漢詩、近・現代詩に至るまで多彩なジャンルの詩歌を取り上げた人気コラム「折々のうた」を79年に始め、詩

歌の魅力を広く読者に伝えた業績で80年に菊池寛賞。コラムは休載をはさみながら07年まで計6762回続いた。

連歌や連句の伝統を踏まえながら詩を共同制作する「連詩」の創始者でもある。武満徹らとの歌曲の共同制作、丸谷才一や井上ひさしらとの連句の会など活動は多方面にわたった。

明治大や東京芸術大の教授を務め、89〜93年に日本ペンクラブ会長、01〜07年度に朝日賞選考委員。95年恩賜賞・日本芸術院賞、97年朝日賞と文化功労者、03年文化勲章。

東京経済大教授で芥川賞作家の大岡玲さんは長男。